

新町小学校だより

～かしこく ころろゆたかに

たくましく 生きる新町の子～

第7号

令和3年7月20日

津市立新町小学校

Tel 059-228-5125

人は、食べたものと**読んだ本**でできている！

これは、本校の図書館ボランティアの方から教えていただいた言葉です。

一学期、新町小の子どもたちは、たくさんの本を読みました。今年の長雨で外で遊ぶことが減ったことや、長いコロナ禍の影響で巣ごもりの間に「本でも読むか…」と読書習慣が身についた子が多くなったからかもしれません。そして何より、図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせや、図書室で本を読みたくなるような素晴らしい環境を整えてくださっていることも大きな要因です。この4月から7月までで「11,209冊」もの本が貸し出されました。（昨年期は8,628冊でした）

学校にも一人一台タブレットが導入され、子どもたちの周りから本を読む環境がどんどん無くなりつつあります。さぞかしスマホが当たり前の高校生はもっと本離れが進んでいるだろう…と思いきや、そんなことはありませんでした。

先日、県立津高校から「ビブリオバトル(※)」に招待され、本好きな高校生の発表を聴いてきました。本を愛してやまない熱い思いが伝わってきて「新町小の子がこんな高校生になったらステキだな。」と感心して帰ってきた翌日、6年生の子が書いてきた下の日記を見つけました。ボランティアの方が言われた通り、読んだ本で人は大きく成長します。未来の有名作家を見つけた気分嬉しくなりました。

この長い夏休みの間に、お子さんに本を読むことを勧めてみては、または、親子で一緒に本を読んでみてはいかがでしょうか。

※詳しくはこちら→



【図書ボランティア活動の様子】



【ビブリオバトル@津高2021の様子】

世界を本で幸せにする。それが、ぼくの夢です。世界一の作家。別に有名になってお金をかせぐとか、大金持ちになるとか、そういう夢ではありません。

かつて、ぼくは小説に何度も心を救われました。歌を歌う人は歌で笑わせたり泣かせたりできます。でも、耳の聞こえない人や目が見えない人は状況を把握しにくい場合があります。しかし、文字はどうでしょう。耳が聞こえなくても目で、目が見えなくても点字で喜んでもらえます。病院に入院している人、小学生や大人、黒人や白人、いろんな人にぼくの本を読んでもらいたいです。そして、外国語などに文字を訳して、外国でもたくさんの人に読んでほしいです。

生きる力、やる気、勇気、そんな力でぼくを笑顔にしてくれた本の力で、今度はぼくが世界中の人を笑顔に、そして幸せにしたいです。（6年生）